

第 12 回軽金属学会功労賞

軽金属学会功労賞は、永年にわたり軽金属学の発展ならびに当会の活動に顕著な貢献をした者に贈られる。軽金属学会功労賞選考委員会（委員長 里 達雄）の審査を経て平成 22 年 2 月 22 日（月）に開催された第 101 回理事会において慎重審議の結果、軽金属学会特別功労賞に碓井栄喜君、軽金属学会功労賞に佃 市三君、村田 清君の授賞を決定、社団法人軽金属学会第 118 回春期大会第 1 日目の 5 月 22 日（土）に関西大学において表彰式を挙行了。

[軽金属学会特別功労賞]

受賞者 碓井 栄喜 君 株式会社神戸製鋼所 アルミ・銅カンパニー 技監 昭和 22 年 1 月 26 日生（63 才）

受賞理由



碓井栄喜君は、40 年にわたりアルミニウム合金の研究開発と実用化に尽力してきた。特に、日本のアルミニウム産業を代表する製品である、アルミニウム製キャン材、高記録密度磁気ディスク用アルミニウム合金製基盤材の開発に貢献した。ディスク用アルミニウム合金製基盤材においては、技術の差別化と卓越した品質で、世界のほぼ 100% を日本から供給するまでに至り、その成果にかかる同君の貢献と業績は大きく評価されている。また、最近では自動車軽量化ニーズにいち早く着目し、自動車用パネル材や熱交換器材の開発を推し進め、日本の自動車産業発展に素材分野として貢献したことは、自動車業界からの評価も大きい。

一方、アルミニウムの社会的課題に対する同君の功績も大きく、アルミニウムのアルツハイマー原因因子としての嫌疑に対し、業界を代表して解決にあたり、アルミニウムの社会的信頼を獲得した業績は高く評価されている。また、長年にわたり日本アルミニウム協会の産学懇談会の議長を務め、アルミニウム業界と本学会との交流にも多大な貢献を行った。

軽金属学会では、1999 年就任以来長年にわたり理事を務め、研究委員会委員長、企画委員会委員長、研究委員会委員長を歴任するとともに、アジア国際フォーラム等を積極的に企画し、アジアでの本学会の国際的な地位向上にも貢献した。近年では、日本の将来を支える技術の創出を目的とする研究委員会常設部会を発足させ、日本のアルミニウム分野の研究開発の方向付けに大きく貢献した。

以上の功績は極めて顕著であると認め、ここに軽金属学会特別功労賞を贈る。

学会活動

1973 年 軽金属学会入会 現在に至る

1999 年 理事に就任 2008 年退任

1999～2000 年 研究委員会委員長

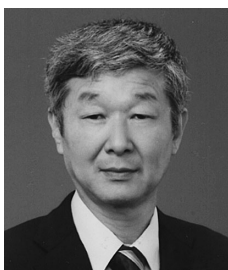
2001～2002 年 企画委員会委員長

2007～2008 年 研究委員会委員長

[軽金属学会功労賞]

受賞者 佃 市三 君 昭和電工堺アルミ株式会社 専務取締役 昭和25年5月7日生(59才)

受賞理由



佃 市三君は、1975年に昭和アルミニウム(現 昭和電工)株式会社に入社以来、一貫してアルミニウム合金の研究開発に従事し、構造用アルミニウム合金6N01の開発、切削用アルミニウム合金の工具摩耗改善および電解コンデンサ用高純度アルミニウム箔の開発などに成功した。これら開発の過程では大学との共同研究を活発に行って基礎的なデータなどを整理し、また、常に具体的な市場をターゲットとした研究開発を進めた。これら成果は、本学会での発表や学会誌への投稿、およびセミナー等での講演にて明らかにされた。また、本学会研究委員会である casting・凝固部会、材料・物性部会委員として活動し、アルミニウム産業界の技術向上に貢献した。その間に、軽金属学会創立40周年記念論文功労賞を受賞している。

以上に代表される軽金属学会での諸活動に加えて、軽金属学会理事および関西支部理事として、また、小山田記念賞、軽金属学会賞、軽金属学会功労賞、軽金属功績賞、高橋記念賞などの各賞選考委員会委員として、学会活動への支援を長年行っている。

以上の功績は極めて顕著であると認め、ここに軽金属学会功労賞を贈る。

受賞者 村田 清 君 芝浦工業大学 准教授 昭和19年4月23日生(65才)

受賞理由



村田 清君は、昭和43年に芝浦工業大学金属工学科に助手として就任した後、現在までの長きにわたり、軽金属を中心とした研究を進め、数々の研究業績を挙げてきた。これらの中で、軽金属材料を主体とした複合材料の開発では、主導的な立場を示すとともに貴重な知見を提供している。また、その間大学の教壇に立ち、独特の教育理念を持って積極的に学生を指導し、軽金属に関する多くの若手研究者や技術者の育成に多大な尽力を注いできた。

本学会では、総務、企画などの委員会に積極的に参画し、学会の運営や活動に深くかかわってきた。特に、関東で開催される講演大会では、実行委員として、また、実行委員会幹事として実質的な大会運営を担当した。一方、関東支部の運営委員も長年務め、第1回関東支部若手ポスター講演会では、企画・運営を始め実行委員長として講演会を盛会に取り仕切った。

以上のように、40年間以上にもわたる軽金属に関する研究業績に加え、学会での献身的な活動、さらに若手の研究者や技術者の育成にも十分に尽力した。このような同君の地道で継続的な活動の積み重ねにより、本学会の発展に極めて大きく貢献している。

以上の功績は極めて顕著であると認め、ここに軽金属学会功労賞を贈る。